

主の2020年を迎えました。今年も神のみことばに従って主のみこころのうちは歩んでまいりたいと思います。

2020年度は『**多くの実を結ぶキリスト者生活を**』という主題を覚え、主イエスが「**人がわたしにとどまり、わたしもその人にとどまっているなら、その人は多くの実を結びます。**」と言われたみことばを心に留めて歩みたいと思います。

実を結ぶぶどうの木

『植物が花を咲かせた後に実を生らせる』という、この自然の法則を人生に当てはめて『実を結ぶ』と表現しますが、『実を結ぶ』という言葉は辞書でみますと、『努力の結果が現れ、成功すること』と書かれています。つまりこれは人の努力によって得た結果を意味する言葉です。その「**実を結ぶ**」という言葉は聖書の中に繰り返し記されていますが、みことばは人の努力の結果としてではなく、主にあつて「**実を結ぶ**」と教え、しかも「**多くの実を結ぶ**」と約束されています。

お聞きしていますヨハネの福音書 15章には、主イエスがお語りになった有名なみことばが記されています。1~2節に、「**わたしはまことのぶどうの木、わたしの父は農夫です。**」と記されています。農夫とぶどうの木の幹と枝の関係をたとえにして語られたのです。イエスはこの農夫を「**わたしの父**」と言われました。そしてご自分のことを「**まことのぶどうの木**」と言われ、私たちのことを「**わたしの枝**」と言われています。5節にも「**あなたがたは枝です。**」言われています。神をぶどう園の農夫にたとえ、主イエスがぶどうの幹、私たちは幹につながる枝にたとえられているのです。

農夫は幹につながる枝に、ぶどうの実が豊かに実るために刈り込みをします。2節に「**わたしの枝で実を結ばないものはすべて、父がそれを取り除き、実を結ぶものはすべて、もっと多く実を結ぶように、刈り込みをなさいます。**」と書かれています。ぶどうに限らずどの果実でも、良い実を結ぶために「**刈り込み**」が必要です。刈り込みは不要な部分を取り除くことです。この刈り込みが収穫に大きく影響するのです。

今月の納骨堂清掃の時に、納骨堂に植わっているサルスベリの木に実がついていました。サルスベリは「百日紅」(ヒヤクジツコウ)とも言われ紅色やピンクなどの花を咲かせます。幹が斜めに傾いていてみすばらしい形をしているので、もう撤去したらどうかといつも言われている木ですが、今年は沢山の実を実らせていたので驚きました。私は初めて見ました。毎年刈り込まれて、丸坊主になっているのですが、その刈り込みのタイミングが良いと、春に新芽が出て枝となり、その枝に互生と言って茎の節に互い違いに葉がつくのです。そして枝の先に花が咲きます。夏に花が咲いてその後に果実ができ、その中にある種を収穫してうまく育てると、2年程で花が咲くようになるそうです。冬にしっかり剪定しておくのが、勢いのよ

い枝を生えさせ花の房を大きくする秘訣だそうですので、丸坊主にしたのが良かったのでしょうか。私たちは神が与えてくださる人生における様々な訓練によって、神による「刈り込み」を受けます。それによって「多く実を結ぶ」のです。

4節には次のように言われています。「わたしにとどまりなさい。わたしもあなたがたの中にとどまります。枝がぶどうの木にとどまっていなければ、自分では実を結ぶことができないのと同じように、あなたがたもわたしにとどまっていなければ、実を結ぶことはできません。」と、枝は木につながっていなければ実を結びません。「とどまる」とは枝が幹にしっかり繋がっていることです。この言葉には「住む」とか「生きる」という意味があります。5節にも「わたしはぶどうの木、あなたがたは枝です。人がわたしにとどまり、わたしもその人にとどまっているなら、その人は多くの実を結びます。わたしを離れては、あなたがたは何もすることができないのです。」と記されています。枝である私たちが幹であるイエス・キリストに「とどまって」いることによって実を結ぶのです。私たちがイエスにとどまっていないなら、「何もすることができない」と言われているのです。生きているようでも死んでいる、できているようで実は何もできていないということです。主イエスのうちに住み、生きるということ、イエス・キリストとの生きた交わりを持っていることによって、私たちは「多くの実を結ぶ」のです。

私たちが結ぶ実

ところでキリスト者が結ぶ実とはどのような実でしょう。「実を結ぶ」という言葉をどのような時に使っているのでしょうか。

その一つは『宣教の実』でしょう。イエス・キリストの福音が伝えられみ救いに与る人が起こされることです。コロサイ人への手紙1章6節に「この福音は、あなたがたが神の恵みを聞いて本当に理解したとき以来、世界中で起こっているように、あなたがたの間でも実を結び成長しています。」というみことばがあります。十字架の恵みの福音を聞いて救いに与る人たちが世界中で起こっているとパウロは言い、コロサイの町の人々の間でも「実を結び成長しています」と言っています。

またキリスト者が結ぶ実で、よく知られているのは「御霊の実」でしょう。ガラテヤ人への手紙5章22~23節に「御霊の実は、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制です。」と書かれています。霊的な実、また品性の実と言われます。この実を結ぶことによってキリスト者としての特徴が現されます。これに相對するのは「肉のわざ」です。「...敵意、争い...憤り...分裂、分派」の類だと言われているから、確かにキリスト者に相応しいのは御霊の実だとわかります。

この他にも「悔い改めにふさわしい実を結びなさい。」(マタイ3:8)とありますし、パウロは「働きが実を結ぶ」(ピリピ1:22)とか、「良いわざのうちに実を結び...成長しますように。」(コロサイ1:10)と書いています。また「義という平安の実を結ぶ

せます。」(ヘブル 12:11)や「義の実を結ばせる種」(ヤコブ 3:18)とも書かれています。

いずれも、それはイエス・キリストの御救いにあずかったキリスト者が、キリストにあつてまた聖霊によっていただく恵みであり、それは拡がり、成長し、その実が結ばれることによって人生の方向転換をなし、義なる歩みへと導かれ、神のみこころにそつた歩みへと変えられて行くのです。

実を結ぶために

イエス・キリストは「わたしにとどまっていなければ、実を結ぶことはできません。」と言われました。イエスのうちに 住み、生き、また主が私たちの内に住んでくださり生きてくださらなければ、実を結ばないどころか「投げ捨てられて、枯れます。」と言われています。6 節に「だれでも、もしわたしにとどまっていなければ、枝のように投げ捨てられて、枯れます。人々はそれを寄せ集めて火に投げ込むので、それは燃えてしまいます。」とあります。枝は木から離れては成長することも実を結ぶこともできません。木から離れてしまうと枯れてしまいます。実を結ばない枝であれば、農夫はそれを不要な枝として取り除きます。刈り取られた枝は枯れて捨てられ、燃やして処分します。枝は木にとどまっていることによって地中からの養分を受け、成長して実を結びます。私たちも主イエスから離れてしまうと、つまり主に信頼して従うことを止めると、いのちを失ってしまいます。父なる神によって取り除かれてしまいます。イエスにとどまっていなければ、私たちは実を結ぶことができず何もすることができず、ついには滅んでしまうと言うことです。幹に繋がっているぶどうの木は、やがて実を結び価値ある存在となります。キリスト者は見栄えが良いことや有名になることや富むことによって価値ある者となるのではなく、主イエスにとどまっているかどうかによって存在価値が決まるのです。イエスの内に住み生きていることによって、またイエスが私たちのうちに住んでおられるなら、農夫である神にとって私たちは価値ある存在となるのです。

では私たちが良い実を結ぶぶどうの木ようになるためにはどうすればよいのでしょうか。それはイエスのみことばにとどまり、きよめられることです。3 節に「あなたがたは、わたしがあなたがたに話したことばによって、すでにきよいのです。」と言われています。「わたしがあなたがたに話したことば」、つまりみことばによってあなたがたは「すでにきよいのです」と言っておられるのです。「きよい」とは、罪から離れ、罪とは無縁な、神との交わりが可能な状態のことです。私たちは生まれながらにして、罪の性質を持っており、罪とともに歩んでおり、神がご覧になるとそれは汚れているのです。汚れたままでは神がおられる天の御国には入ることができません。そこで神は、私たちの罪を赦し、汚れから私たちを解放するために、神の独り子であられるイエス・キリストをこの世に遣わして十字架に磔とし、このイエスの十字架が私の罪のためであったと認めることによって、罪と汚れのない者と認めてくださる道を備えてくださったのです。神は、その約束が

確かなものであることを示すために、私たちにみことばを与えてくださいました。罪が赦され、きよくされる方法がみことばによって示されているので、私たちはそのみことばによってきよい、きよくされていると言われているのです。

また7節にも「あなたがたがわたしにとどまり、わたしのことばがあなたがたにとどまっているなら、何でも欲しいものを求めなさい。そうすれば、それはかなえられます。」と主は言われました。「わたしのことばがあなたがたにとどまっているなら」と言われるのです。私たちがイエスにとどまり実を結ぶとはどういうことなのかを教えてください。それはイエスが語られたみことばが私たちの心にあるということ、イエスのことばを心に持ち続けることです。そしてこのイエスのみことばが心にある時に、私たちはイエスを通して神に祈ることができ、その祈りはかなえられると、主は約束されたのです。私たちはイエス・キリストのみことばに聴き従うことを通して、幹であるイエスにいつもつながっていることができます。こうして神に生かされている、この枝は本当に生きていますといえる、つまりイエス・キリストとの生命的な交わりをいただき、生きていますといえる人生を、価値ある人生を送らせていただきたいと思います。

8節に「あなたがたが多くの実を結び、わたしの弟子となることによって、わたしの父は栄光をお受けになります。」とされています。私たちが主イエスに従い仕えることを通して、神の栄光が現されます。「わたしの父は栄光をお受けになります。」と主は言われました。つまり、キリスト者は造り主である神のすばらしさを現している時にこそ価値ある存在となるのです。実を結ぶことによって父なる神の栄光が現されるのです。

みことばにとどまり、イエス・キリストによって生き、悔い改めの実を結び、御霊によって霊的な品性の実を結び、義の実を結ばせていただくことによって、福音宣教の実が結ばれて行くようにと心から願います。2020年が『実を結ぶぶどうの木のように』多くの実を結ぶ年となるように祈りましょう。